

大阪府

統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。



**令和２年度**

**大阪の学校保健統計調査報告書**

**大阪府総務部統計課**

**目 次**

調査の概要 １

利用上の注意 ２

調査結果の概要 3

１　発育状態

（１）　身長 4

（２）　体重 8

２　肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率 12

３　健康状態

（１）　疾病・異常の被患率等の状況 14

（２）　主な疾病・異常等の状況

①裸眼視力 15

②鼻・副鼻腔疾患 16

③むし歯（う歯） 17

④アトピー性皮膚炎 18

⑤ぜん息 19

**統計表**………………………………………………………………………………………………………………20

# 調査の概要

**１　調査の目的**

学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにする。

**２　調査の範囲・対象**

（１）調査の範囲は、幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校（以下「調査実施校」という。）とする。

（２）調査の対象は、調査実施校に在籍する満５歳から17歳（令和２年４月１日現在）までの幼児、児童及び生徒の一部とする。〔抽出調査〕

【大阪府の調査実施校数及び調査対象者数】



**３　調査事項**

（１）幼児、児童及び生徒の発育状態（身長、体重）

（２）幼児、児童及び生徒の健康状態（栄養状態、脊柱・胸郭・四肢の疾病・異常の有無、視力、聴力、眼の疾病・異常の有無、耳鼻咽頭疾患・皮膚疾患の有無、歯・口腔の疾病・異常の有無、結核の

　　　有無、結核に関する検診の結果、心臓の疾病・異常の有無、尿及びその他の疾病・異常の有無）

**４　調査の実施時期**

学校保健安全法による健康診断の結果に基づき、４月１日から６月30日までの間に実施

【令和2年度調査での変更点】

・調査期間

　　4月１日から６月30日まで → 4月1日から令和3年3月31日まで

・提出時期

　 ８月10日まで → ４月１日から９月30日まで実施分は、10月12日まで

10月1日から令和3年３月31日まで実施分は、同年4月12日まで

**５　調査の系統**

　 文部科学大臣　　　　　大阪府知事　　　　　調査実施校の長

# 利用上の注意

１　本報告書は、文部科学省が公表した「令和２年度学校保健統計調査報告書」のうち大阪府分について取りまとめたものである。

２　年齢は、令和２年４月１日現在の満年齢である。

３　小数点以下は、単位未満を四捨五入したため、総数と内訳の計が一致しない場合がある。

４　表中に用いた符号

「－」　計数が無い場合

「0.0」 計数が単位未満の場合

「…」　計数出現があり得ない場合又は調査対象とならなかった場合

「Ｘ」　標本サイズが小さい等のため統計数値を公表しない場合

「△」　負数

　5　健康状態調査は、平成17年度以前は都道府県別集計が行われていなかったため、平成18年度以降のデータを掲載している。

　６　令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年4月1日から6月30日に実施される健康診断について同年度末までに実施することとなったため、学校保健統計調査においても調査期間を同年度末まで延長することとされた。

　　　このため、本集計結果は、成長の著しい時期において測定時期を異にしたデータを集計したものとなっており、過去の数値と単純比較することはできないため、令和元年度との比較並びに祖父母世代及び親世代との比較は行っていない。

**調査結果の概要**

**１　発育状態**

**身長**

　　　　　全国平均値と比較すると、

男子は年齢層によりばらつきがあり、５歳、８歳、11歳から16歳までで同じか高く

　　　　なっている。

女子は5歳から7歳まででやや低い傾向があるが、8歳、10歳から14歳まで、16歳、

17歳で同じか高くなっている。

**体重**

　　　　　全国平均値と比較すると、男女ともにやや軽い傾向がある。

男子は5歳から12歳まで、14歳、15歳、17歳で下回っている。

女子は5歳から10歳まで、12歳から17歳までで同じか下回っている。

**2　肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率**

**肥満傾向児**

全国平均値と比較すると、

男子は5歳から10歳まで、12歳、15歳、17歳で、

女子は5歳から7歳まで、10歳から15歳まで、17歳で

下回っている。

**痩身傾向児**

　　　　　全国平均値と比較すると、

　　　　　男子は7歳、9歳から11歳まで、13歳、14歳、16歳、17歳で上回っている。

女子は5歳、10歳から17歳までで同じか上回っている。

**3　健康状態**

**裸眼視力1.0未満の者の割合**

　　　　　幼稚園20.2％、小学校39.2％、中学校56.6％となっており、全国平均値と比較すると、

　　　　８歳から12歳までで上回っている。

**むし歯(う歯)の者の割合**

幼稚園32.4％、小学校38.5％、中学校33.2％、高等学校39.3％となっており、全国平均値と

　　　　比較すると、6歳、8歳から11歳まで、15歳から17歳までで下回っている。

# 調査結果

## １　発育状態

### （１）　身長

**表1　身長の平均値（全国との比較）**



　全国平均値と比較すると、

　男子は年齢層によりばらつきがあり、５歳、８歳、11歳から16歳までで同じか高くなっている。

　女子は5歳から7歳まででやや低い傾向があるが、8歳、10歳から14歳まで、16歳、17歳で

同じか高くなっている。



**図1-1　身長の平均値（男子・全国との比較）**



**図1-2　身長の平均値（女子・全国との比較）**



**図2　身長の平均値の全国との差**

**図3　身長の平均値の推移**

**5歳**

****

**11歳**

****

**14歳**

****

**17歳**

****

（注）１ ５歳については、昭和27年度及び昭和28年度は調査していない。

２ 昭和45年度及び昭和46年度は、都道府県別集計が行われていなかったため、掲載していない。

３　昭和52年度及び昭和53年度は、「学校保健調査」（大阪府教育委員会保健体育課実施）の集計結果である。

４ 令和２年度の数値については、新型コロナウイルス感染症の影響により調査期間が同年度末まで延長されたため、過去の数値と単純比較することはできない。



**表2　身長の平均値の都道府県別比較**

### （２）　体重

**表3　体重の平均値（全国との比較）**



　　全国平均値と比較すると、男女ともにやや軽い傾向がある。

男子は5歳から12歳まで、14歳、15歳、17歳で下回っている。

女子は5歳から10歳まで、12歳から17歳までで同じか下回っている。

**図4-1　体重の平均値（男子・全国との比較）**



**図4-2　体重の平均値（女子・全国との比較）**



**図5　体重の平均値の全国との差**



**図6　体重の平均値の推移**

**5歳**



**11歳**



**14歳**

****

**17歳**

****

（注）１ ５歳については、昭和27年度及び昭和28年度は調査していない。

２ 昭和45年度及び昭和46年度は、都道府県別集計が行われていなかったため、掲載していない。

３　昭和52年度及び昭和53年度は、「学校保健調査」（大阪府教育委員会保健体育課実施）の集計結果である。

４ 令和２年度の数値は、新型コロナウイルス感染症の影響により調査期間が同年度末まで延長されたため、過去の数値と単純比較することはできない。



**表4　体重の平均値の都道府県別比較**

## ２　肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

**表5　肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率**



①　肥満傾向児の出現率が最も高い年齢は、男子は13歳で14.82％、女子は９歳で9.63％となって

　いる。

　　　全国平均値と比較すると、男子は5歳から10歳まで、12歳、15歳、17歳で、女子は5歳から7歳まで、10歳から15歳まで、17歳で、下回っている。

②　痩身傾向児の出現率が最も高い年齢は、男子は16歳で4.79％、女子は12歳で6.63％となって

　いる。

　　　全国平均値と比較すると、男子は7歳、9歳から11歳まで、13歳、14歳、16歳、17歳で上回って

　　いる。女子は5歳、10歳から17歳までで同じか上回っている。

【肥満・痩身傾向児の算出方法】

性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度(過体重度)※を算出し、20％以上の者を肥満傾向児、

△20％以下の者を痩身傾向児としている。

　　　※肥満度(過体重度) ＝ 〔実測体重(kg) － 身長別標準体重(kg)〕／ 身長別標準体重(kg) × 100(％)

身長別標準体重(kg) ＝ 係数a × 実測身長(cm) － 係数b



**図7-2**

**肥満傾向児の出現率(女子)**

**図7-1**

**肥満傾向児の出現率(男子)**



**図8-2**

**痩身傾向児の出現率(女子)**

**図8-1**

**痩身傾向児の出現率(男子)**



## ３　健康状態

### （１）　疾病・異常の被患率等の状況

**表6　疾病・異常の被患率等**



学校段階別の疾病・異常の被患率等は、幼稚園では「むし歯(う歯)」の者の割合が最も高く、次いで「裸眼視力1.0未満」の者となっている。小学校及び中学校では「裸眼視力1.0未満」の者の割合が最も高く、次いで「むし歯(う歯)」の者となっている。高等学校では「むし歯(う歯)」の者の割合が最も高かった。

### （２）主な疾病・異常等の状況

#### **①裸眼視力**

裸眼視力1.0未満の者の割合は、幼稚園20.2％、小学校39.2％、中学校56.6％となっている。

全国平均値と比較すると、８歳から12歳までで上回っている。

**図9　裸眼視力1.0未満の者の割合（年次推移）**





（注） 高等学校は、メガネやコンタクトレンズで視力矯正をして測定しているため裸眼視力の調査データが無いか少なく、

秘匿対象となっている年度が複数存在するため、年次推移グラフは掲載していない。

**図10　裸眼視力1.0未満の者の割合（全国との比較）**



#### **②鼻・副鼻腔疾患**

鼻・副鼻腔疾患（慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎等）の者の割合は幼稚園4.1％、小学校7.9％、

　中学校6.8％、高等学校5.7％となっており、年齢別にみると、6歳が11.0％と最も高くなっている。

全国平均値と比較すると、5歳を除く全ての年齢で下回っている。

**図11　鼻・副鼻腔疾患の者の割合（年次推移）**





**図12　鼻・副鼻腔疾患の者の割合（全国との比較）**



#### **③むし歯(う歯)**

むし歯(う歯)の者の割合は、幼稚園32.4％、小学校38.5％、中学校33.2％、高等学校39.3％と

なっており、年齢別にみると、8歳が45.2％と最も高くなっている。

全国平均値と比較すると、6歳、8歳から11歳まで、15歳から17歳までで下回っている。

**図13　むし歯(う歯)の者の割合（年次推移）**







**図14　むし歯(う歯)の者の割合（全国との比較）**



#### **④アトピー性皮膚炎**

アトピー性皮膚炎の者の割合は、幼稚園1.8％、小学校2.9％、中学校2.0％、高等学校2.8％と

なっており、年齢別にみると、10歳が3.3％と最も高くなっている。

全国平均値と比較すると、5歳から9歳まで、11歳から14歳までで下回っている。

**図15　アトピー性皮膚炎の者の割合（年次推移）**





**図16　アトピー性皮膚炎の者の割合（全国との比較）**



#### **⑤ぜん息**

　ぜん息の者の割合は、幼稚園0.7％、小学校2.5％、中学校1.9％、高等学校1.4％となっており、

　年齢別にみると、6歳が3.1％と最も高くなっている。

　全国平均値と比較すると、全ての年齢で下回っている。

**図17　ぜん息の者の割合（年次推移）**





**図18　ぜん息の者の割合（全国との比較）**



# 統計表

統計表1　　年齢別身長・体重の平均値及び標準偏差（大阪府及び全国）



統計表2-1　　年齢別身長の平均値の推移（大阪府・男子）



統計表2-2　　年齢別身長の平均値の推移（大阪府・女子）



統計表3-1　　年齢別体重の平均値の推移（大阪府・男子）



統計表3-2　　年齢別体重の平均値の推移（大阪府・女子）



統計表4　　肥満傾向児・痩身傾向児の出現率（大阪府及び全国）





統計表5-1　年齢別疾病・異常者被患率等(大阪府・男女計)

統計表5-2　年齢別疾病・異常者被患率等(大阪府・男子)





統計表5-3　年齢別疾病・異常者被患率等(大阪府・女子)



統計表5-4　年齢別疾病・異常者被患率等(全国・男女計)



統計表5-5　年齢別疾病・異常者被患率等(全国・男子)



統計表5-6　年齢別疾病・異常者被患率等(全国・女子)



統計表6-1　学校種別裸眼視力1.0未満の者の割合の推移(大阪府・男女計)

統計表6-2　学校種別鼻・副鼻腔疾患の者の割合の推移(大阪府・男女計)



（注）１ 「X」は、疾病・異常被患率等の標準誤差が５以上、受検者数が100人（５歳は50人）未満、回答校が１校以下又は疾病・異常被患率が100.0％のため、公表しない。

２ 令和２年度の数値については、新型コロナウイルス感染症の影響により調査期間が同年度末まで延長されたため、過去の数値と単純比較することはできない。

統計表6-3　学校種別むし歯(う歯)の者の割合の推移(大阪府・男女計)



統計表6-4　学校種別アトピー性皮膚炎の者の割合の推移(大阪府・男女計)



（注） 令和２年度の数値については、新型コロナウイルス感染症の影響により調査期間が同年度末まで延長されたため、過去の数値と単純比較することはできない。

統計表6-5　学校種別ぜん息の者の割合の推移(大阪府・男女計)



（注） 令和２年度の数値については、新型コロナウイルス感染症の影響により調査期間が同年度末まで延長されたため、過去の数値と単純比較することはできない。

大阪府



**令和３年７月**

〒559－8555　大阪市住之江区南港北1-14-16

大阪府咲洲庁舎（さきしまコスモタワー）　19階

大阪府総務部　統計課　勤労・教育グループ

ＴＥＬ 06(6210)9256 ／ ＦＡＸ 06(6614)6921

ＵＲＬ <http://www.pref.osaka.lg.jp/toukei/top/index.html>